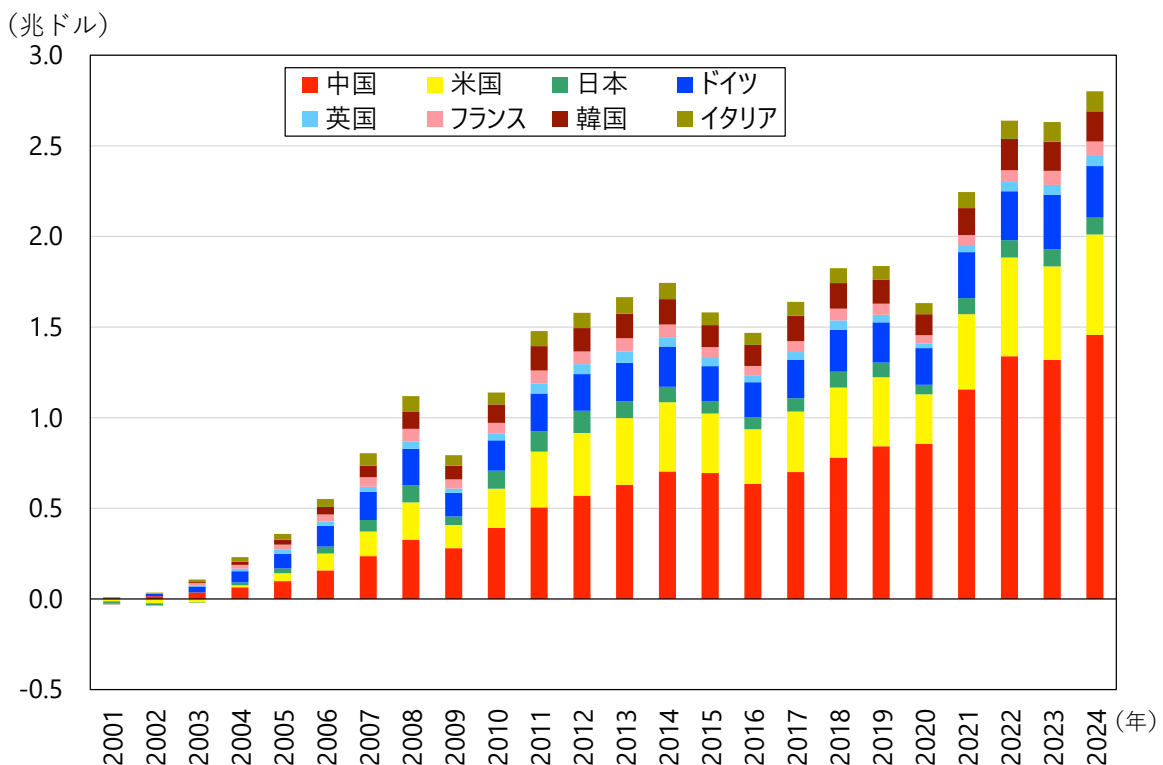


第3節 新興国を取り巻くグローバル・バリューチェーン

本節では、新興国と先進国の関係に焦点を当てながら、これらを取り巻くグローバル・バリューチェーンについて、貿易に係る統計を用いながら分析を行う。グローバル・バリューチェーンは様々な観点からの分析が可能であるが、本節では国際貿易の観点から分析を行うこととする。

最初に、先進国から新興国への輸出の状況を確認する。第1-2-3-1図は、2000年と比較して、各国が新興国への輸出額をどれほど増加させたのかを示している。第1-2-3-1図が示すとおり、いずれの国も新興国向け輸出を増加させており、増加トレンドにあることがうかがえる。特に中国の増加額が大きく、2000年から2024年にかけて約1.5兆ドルの増加となっている。次いで、米国が約0.6兆ドルの増加となり、日本は約0.1兆ドルの増加となっている。

第1-2-3-1図 2000年と比較した各国の新興国向け輸出額

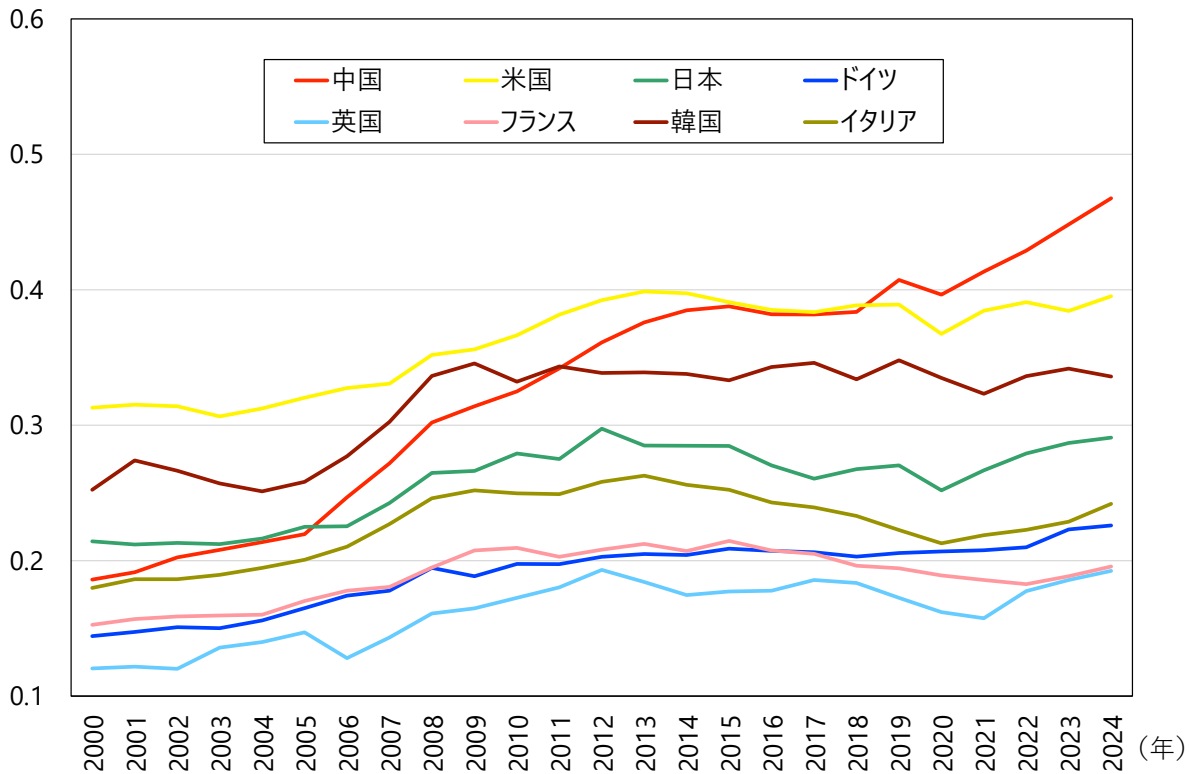


備考：上記の8か国から新興国への輸出額を計算し、2000年と比較した増加額を計算した。
 資料：UN Comtrade から作成。

こうした国々から新興国への輸出は、それぞれの総輸出のうちどれほどの割合を占めるのだろうか。これについて、第1-2-3-2図は、各国の輸出に占める新興国向け輸出の割合を示している。第1-2-3-2図によれば、各国の輸出に占める新興国向け輸出の割合は上昇トレンドにあることが分かる。したがって、これらの国々の輸出における新興国の重要性を当該割合として考えるのであれば、新興国の重要性は年々増加していると考えられる。第1-2-3-2図によれば、特に中国においてこの割合の上昇が著しく、2000年は約20%であったが、2024年には50%近くまで上昇している。米国も、2000年は約30%であったが、2024

年には約40%まで上昇した。日本についても、2000年は約20%であったが、2024年には約30%まで上昇していることが分かる。

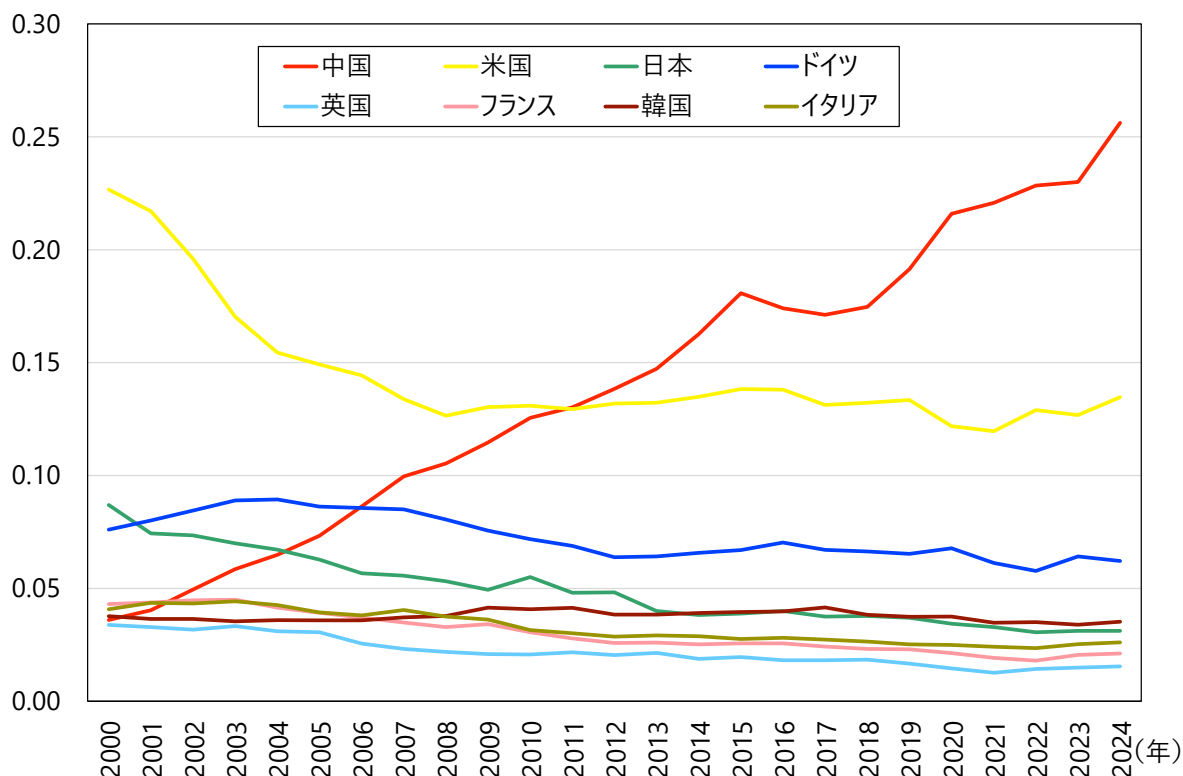
第1-2-3-2 図 各国の輸出に占める新興国向け輸出の割合



備考：これらの8か国から新興国及び先進国への輸出額を計算し、新興国向け輸出の割合を計算した。
資料：UN Comtrade から作成。

ひるがえって、新興国の視点で見ると、これらの国々からの輸入はどのような特徴を持つのだろうか。第1-2-3-3 図は新興国の輸入額に占める上記の国々からの輸出の割合を示している。二つの特徴が見て取れる。第一に、新興国の輸入に占める中国からの輸出の割合が著しく上昇している。具体的には、2000年は約4%であったが、2024年には約26%となっている。第二に、この動きとは対照的に、米国の割合が大きく減少している。米国の割合は、2000年は約23%であったが、2024年には約13%となっている。日本の割合は、2000年は約9%であったが、2024年には約3%となっている。他方、このようにいくつかの国々で割合は減少しているものの、第1-2-3-1 図が示すとおり各国から新興国への輸出が増加していることには留意が必要である。

第1-2-3-3 図 新興国の輸入額に占める各国からの輸出の割合



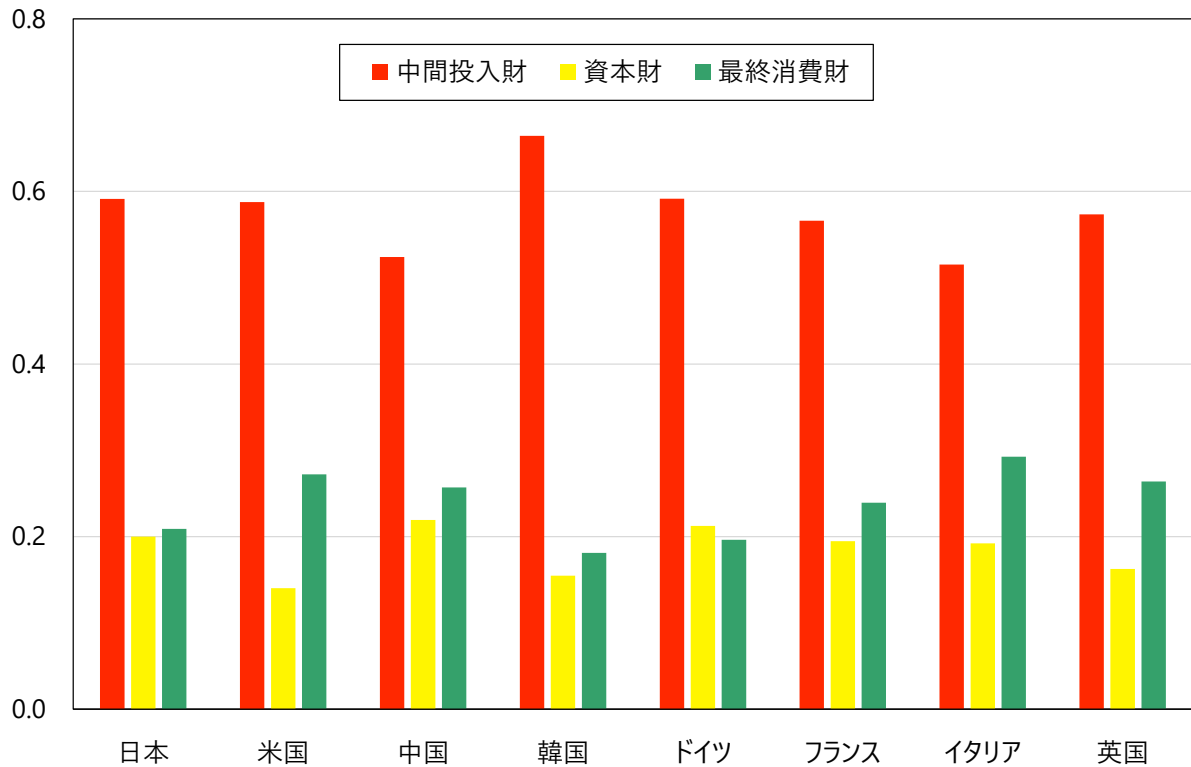
備考：新興国の輸入額に対する、これらの8か国から新興国への輸出額の割合を計算した。

資料：UN Comtrade から作成。

上記では各国から新興国への輸出額の動向を示したが、これらの国々から新興国へはどのような財が輸出されているのだろうか。これを見るため、国連統計部（United Nations Statistics Division）が提供している BEC 分類（Classification by Broad Economic Categories）を用いる。ここでは BEC Rev.5 を用いており、BEC Rev.5 は財を中間投入財（intermediate consumption）、資本財（gross fixed capital formation）、最終消費財（final consumption）と最終用途に対応する形で分類を行っている。詳細は BEC Rev.5 の仕様書を確認されたいが、大まかには、中間投入財と資本財は生産活動のために用いられる財であり、このうち資本財は複数の会計期間にわたって繰り返し使用されるものとなる。最終消費財は、家計などが、そのニーズなどを満たすために使用する財を指す。

第1-2-3-4 図は各国の新興国への輸出財の構成を示している。いずれの国も構成は似ており、中間投入財のシェアが最も大きい。したがって資本財と合わせれば、輸出の多くは、生産活動に用いられるための財であることが分かる。

第1-2-3-4 図 各国の新興国への輸出財の構成

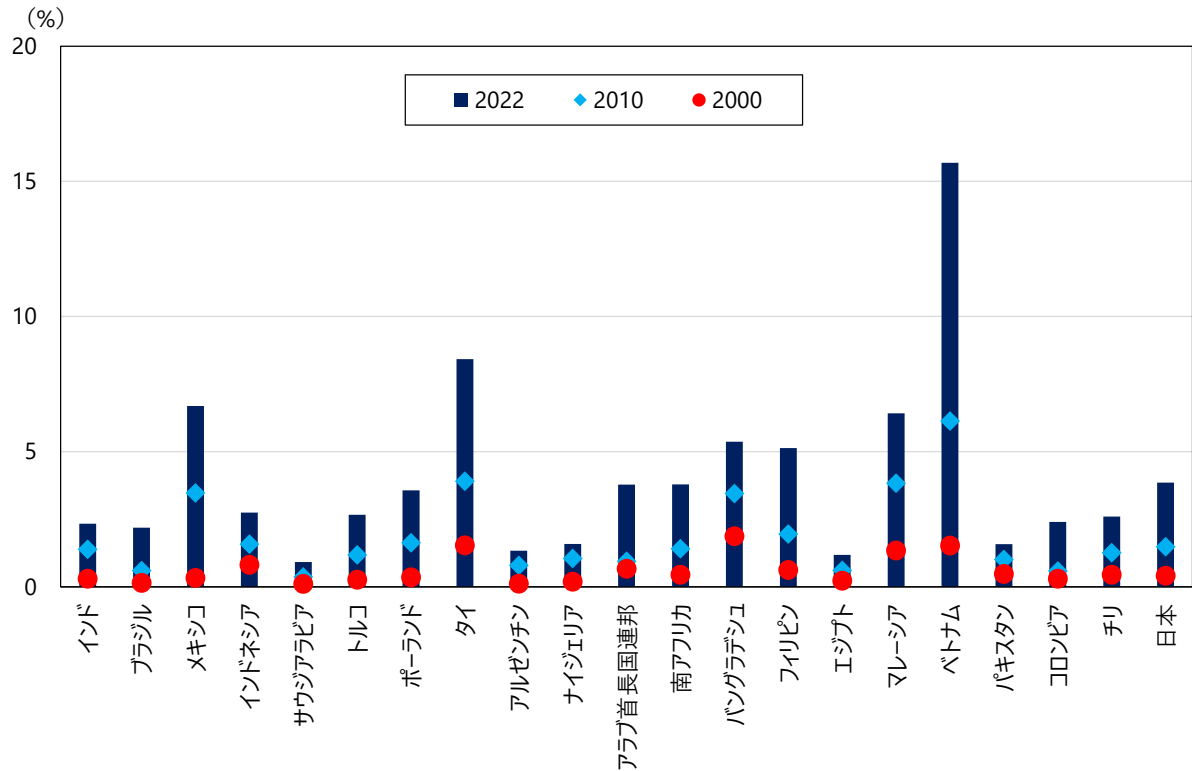


備考：各国から新興国への中間投入財、資本財、最終消費財の輸出額を足し合わせ、それぞれのシェアを計算した。データは2024年。

資料：UN Comtrade から作成。

OECD TiVA (Trade in Value-Added) では、各国の輸出に占めるある国の付加価値の割合を推定している（後方参加指数）。中国から新興国向けの輸出の増加が顕著であることは既に確認したが、第1-2-3-5図では、各新興国の中国に対する後方参加指数を2000年、2010年、2022年について示している。すなわち、各新興国の輸出に占める中国で生産された付加価値の割合を示している。第1-2-3-5図によれば、各新興国の輸出に占める中国で生産された付加価値の割合が上昇傾向にあることが分かる。特にベトナムの上昇が著しく、2000年は約2%であったが、2022年には約16%まで上昇している。こうした点において、各新興国における中国の重要性が年々上昇していることが分かる。

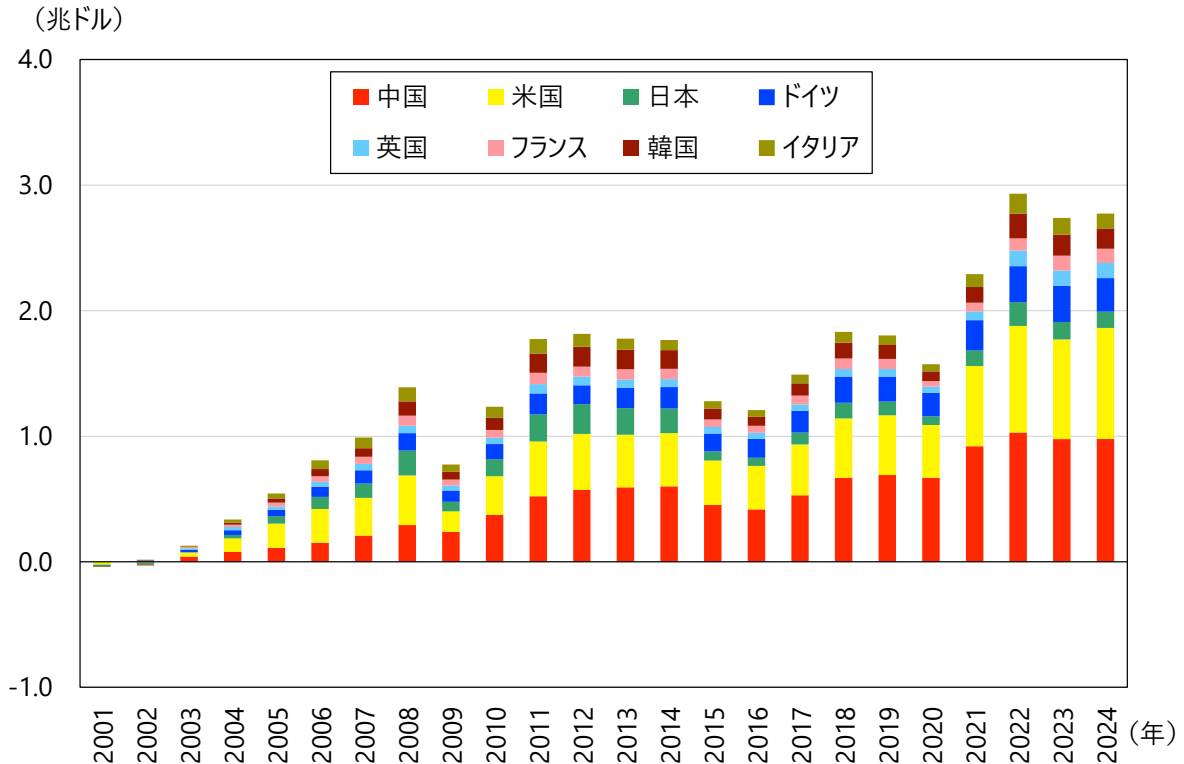
第 1-2-3-5 図 各新興国の中国に対する後方参加指数



資料：OECD TIVA から作成。

次に、新興国から上記の各国への輸出の状況を概観する。第 1-2-3-6 図は 2000 年と比較した各国の新興国からの輸入額を示している。いずれの国についても新興国からの輸入が増加していることが分かる。これらの国々の中では、特に、米国と中国の増加額が大きい。

第 1-2-3-6 図 2000 年と比較した各国の新興国からの輸入額



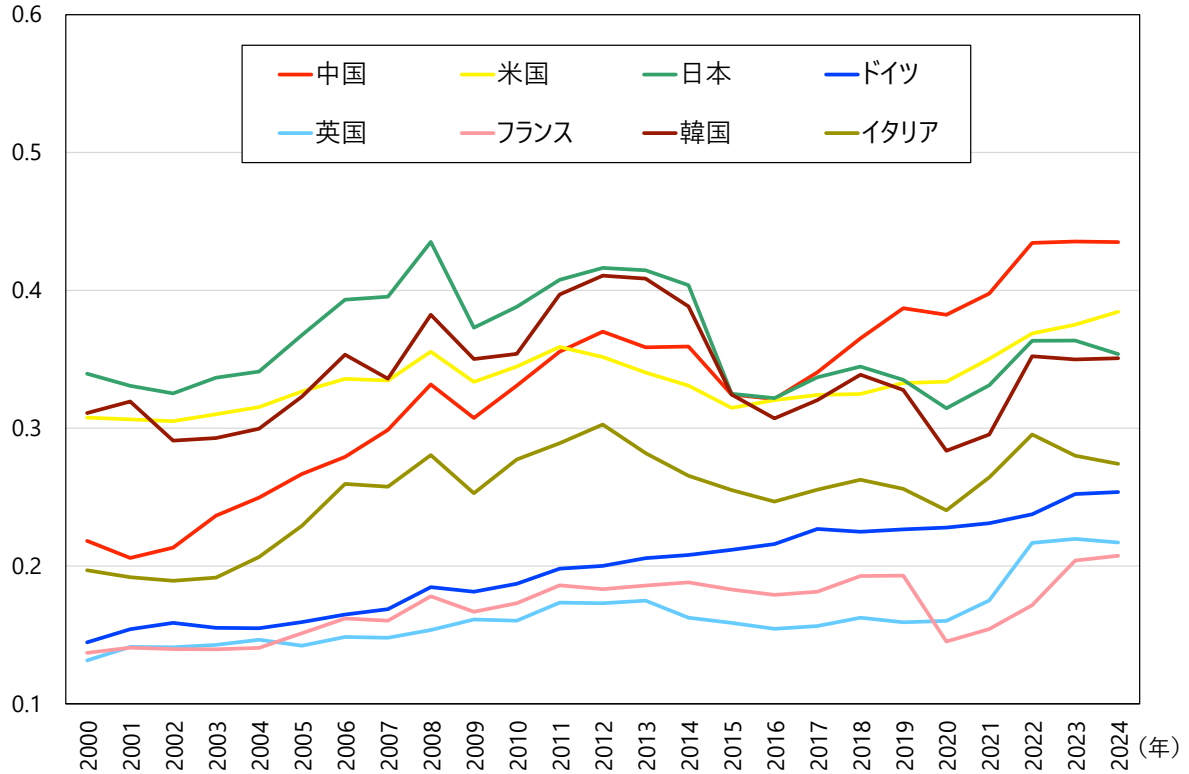
備考：新興国から上記の8か国への輸出額を計算し、2000年と比較した増加額を計算した。
 資料：UN Comtrade から作成。

第 1-2-3-7 図は、各国の輸入に占める新興国からの輸入の割合を示している。長期的に見れば日本及び韓国は横ばいである一方、他の国々は緩やかな上昇傾向を見せている。

新興国の輸出のうち、これらの国々への輸出のシェアがどの程度であるかを示したのが、第 1-2-3-8 図である。これによれば、2000 年は新興国の輸出の約 30%が米国向けであり、中国向けは約 3%であったが、2024 年には中国向けが増加し、新興国の輸出のうち 16%を占めるようになった。

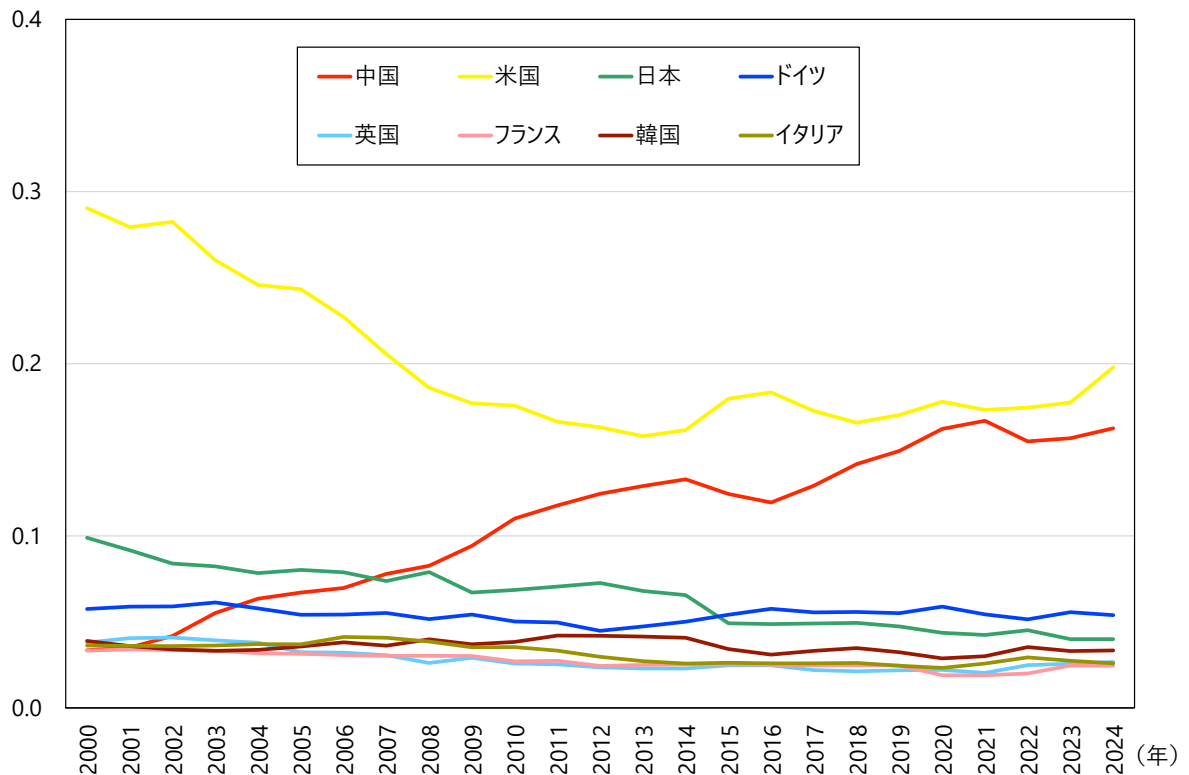
最後に、第 1-2-3-9 図は各国の新興国からの輸入財の構成を示している。いずれの国も中間財のシェアが大きい。他方で資本財の輸入は、輸出の際と比較して小さい傾向がある。特に中国については中間財輸入のシェアが大きく、新興国からの輸入の多くが生産に用いられていることが分かる。

第1-2-3-7 図 各国の輸入に占める新興国からの輸入の割合



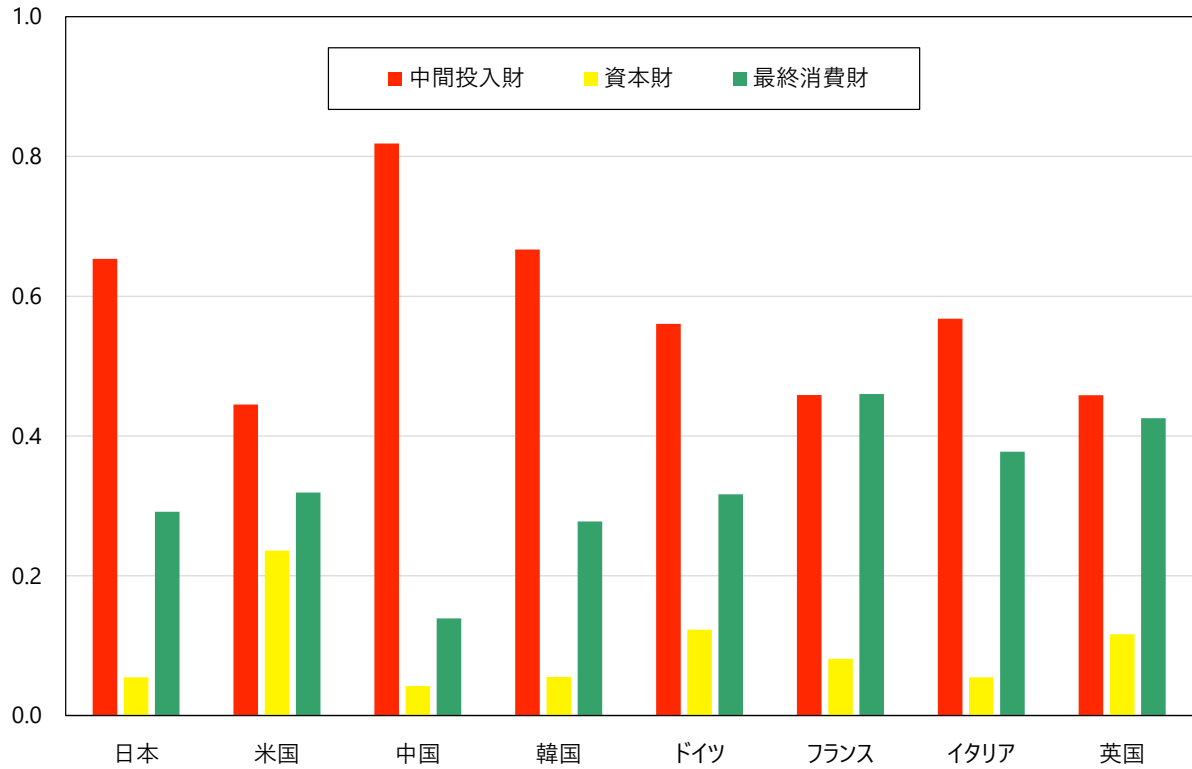
備考：各国の輸入に占める新興国からの輸入の割合を計算した。
 資料：UN Comtrade から作成。

第1-2-3-8 図 新興国の輸出に占める各国への輸出の割合



備考：新興国の輸出に占める各国への輸出の割合を計算した。
 資料：UN Comtrade から作成。

第1-2-3-9 図 各国の新興国からの輸入財の構成



備考：各国の新興国からの中間投入財、資本財、最終消費財の輸入額を足し合わせ、それぞれのシェアを計算した。データは2024年。

資料：UN Comtrade から作成。